

SD法による「似合う」の解析への試み

Analysis of the components of "NIAU" by semantic differential method

市場文規 Takenori Ichiba 疋田千枝 Chie Hikita 近藤ひろみ Hiromi Kondo 富本いちこ Ichiko Tomimoto
菅育子 Ikuko Suga ながなわ久子 Hisako Naganawa 多田真奈美 Manami Tada 宮本真由美 Mayumi Miyamoto
浅野いづみ Izumi Asano 山中マキ Maki Yamanaka 足達朝子 Asako Adachi 竹川一良 Kazuyoshi Takekawa
渡辺江利子 Eriko Watanabe

くらしの色彩研究会

Keywords : 似合う, パーソナルカラー診断, SD法,
相関係数, イメージプロフィール

1. はじめに

パーソナルカラー診断では多くの場合、カラーカテゴリーごとに特徴的な数枚のドレープを用い、それが似合うか似合わないかを診断している。このカラーアナリストが用いる「似合う」「似合わない」という評価がどんな心理評価構成をもっているのかについては、これまで十分な解析が試みられなかった。

本研究ではその構成要素を明らかにするためSD法を用いた解析を試みた。

その結果、「似合う」と相関の高い評価項目が明らかになった。同時に全モデル共通の項目とモデルごとに特徴的な項目とがあることも明瞭となった。また各モデルのドレープをあてた時のイメージプロフィールより、それぞれの見え方の特徴を可視化することができた。

2. 調査条件・方法

1) 調査は1月27日の午後1時から2時に名古屋市内の大学で行った。南窓からガラス越しに自然光が差し込む室内で、3波長型昼白色蛍光灯を補助光源として使用した。モデルは窓から2m内側に東向きに座り、80cm後方にN5.5のパネルを立てた。顔正面の垂直面照度は約2000lxであった。

2) 調査協力者は32名、内訳はカラーアナリスト15名、それ以外の人17名であった。カラーアナリストとそれ以外の人との比率が同じようになるようにした上で、無作為に2グループに分けた。それぞれモデルから1.5m～3.5mの距離で調査を行った(図1)。



図1. SD法による調査風景

3) 評価対象者(モデル)には、パーソナルカラー診断で異なるシーズンと思われる4名の女性を用いた。モデルは普段どおりの化粧をした状態で、白のケープをかけて上半身の着衣が見えないようにした。

4) 使用したドレープはピンク系、ブルー系の4シーズンテストカラー計8枚とし、ピンク系にはNCS表色系でs0540-R30B、s1070-Y80R、s0540-Y90R、s1070-R20Bの4色を、ブルー系にはs0530-B、s4550-B30G、s1030-B31G、s3560-R80Bの4色を使用した。

5) 調査項目は、図2に示した「似合う」「似合わない」を含む16項目の7段階尺度とした。

6) 調査方法は、調査用紙に記入する前に、まずカラーカテゴリーごとに4)の順序でひとつおりのドレープをモデルにあてて下見を行った。続いて同順序で1枚ずつあてて調査用紙に印象を記入させた。記入時間は1サンプルあたり約1分とした。2組に分かれた調査協力者はそれぞれ2人のモデルにピンク4枚、ブルー4枚の計8枚のドレープをあてた印象について調査用紙に記入した。

3. 結果

集計結果に基づき、「似合う」との相関を表1に、因子分析による因子の抽出を表2に示す。

モデルごとの各ドレープをあてた時の軽明感因子×ソフト感因子のイメージマップを図3に、イメージプロフィールを図4に示す。

	非常に	かなり	やや	どちらとも も言えない	やや	かなり	非常に	
暗い	1	2	3	4	5	6	7	明るい
あたたかい	1	2	3	4	5	6	7	冷たい
派手	1	2	3	4	5	6	7	地味
ふっくら	1	2	3	4	5	6	7	ほっそり
上品	1	2	3	4	5	6	7	下品
女性的	1	2	3	4	5	6	7	男性的
軽やか	1	2	3	4	5	6	7	重々しい
おとなしい	1	2	3	4	5	6	7	活発な
健康的な	1	2	3	4	5	6	7	不健康な
野暮っぽい	1	2	3	4	5	6	7	洗練された
シャープな	1	2	3	4	5	6	7	ソフトな
くすんだ	1	2	3	4	5	6	7	透明感がある
若々しい	1	2	3	4	5	6	7	老けた
きつい	1	2	3	4	5	6	7	やさしい
なじんだ	1	2	3	4	5	6	7	違和感のある
似合う	1	2	3	4	5	6	7	似合わない

図2. SD法調査用紙

4. 結論・考察

1) カラーアナリストとそれ以外の人のデータにはかなりの差が見られた。今回は、研究主旨から、カラーアナリスト15名のデータを採用した。

2) 相関係数から、「似合う」と相関の高い評価項目として、「馴染んだ」「洗練された」「健康的な」「上品な」「若々しい」が抽出された。またモデルによって相関の高いものと低いものが存在することも明瞭になった(表1)。モデルBだけが、評価項目「透明感がある」との相関が低いのは、Autumn系の特徴であるマット肌の影響である。また「明るい」「軽やかな」がモデルA、Cで相関が高いのは明るいトーンの似合うSummer系、Spring系の人の特徴を表している。

3) 因子分析より4つの因子が抽出された(表2)。因子No.1は評価性、因子No.2は軽明感、因子No.3はソフト感、因子No.4は活動性の因子とした。

4) 軽明感因子×ソフト感因子のイメージマップからはドレープごとにまとまっているのが読み取れる(図3)。これにより軽明感やソフト感は、モデルの特性よりドレープの特性が主に寄与していることが分かる。

5) イメージプロフィールからは、単なる「似合う」「似合わない」だけでなく、個々の見え方の特徴が可視化された(図4)。これにより各モデルのドレープごとの印象が多面的にとらえられる。

また、イメージプロフィールからモデルA、Cは主にドレープのトーンの違いが評価に影響を与えており、モデルB、Dは主にドレープのカラーカテゴリー内の色相の片寄りが評価に影響を与えていることが見てとれる。

6) 今回の試みによりパーソナルカラー診断時に用いられる「似合う」の心理構成が伺えた。

7) 今回の調査で検討されたカラーアナリストとそれ以外の人の評価差も興味深い。その解析は今後の課題とする。

謝辞 今回の研究にあたり、名古屋大学大学院環境学研究科准教授高橋晋也先生にSD法の基礎からご指導頂いた。ここに記して感謝の意を表します。

表1. 似合うとの相関

	評価項目	全体	モデルA	モデルB	モデルC	モデルD
評価性	馴染んだ	0.948	0.922	0.974	0.902	0.972
	洗練された	0.836	0.826	0.926	0.904	0.963
	健康的な	0.825	0.849	0.901	0.891	0.786
	上品な	0.799	0.650	0.930	0.893	0.708
	若々しい	0.780	0.818	0.693	0.926	0.936
軽明感	明るい	0.550	0.716	0.314	0.874	0.679
	軽やか	0.552	0.810	0.235	0.886	0.564
	女性的	0.494	0.294	0.524	0.763	0.613
	透明感がある	0.652	0.845	0.513	0.828	0.852
	やさしい	0.576	0.396	0.758	0.790	0.242
ソフト感	あたたかい	0.200	-0.185	0.633	0.117	-0.347
	ふっくらした	0.279	0.075	0.646	0.491	-0.221
	ソフトな	0.192	0.044	0.557	0.504	-0.469
活動性	活発な	-0.160	-0.402	-0.070	-0.324	0.211
	派手な	0.248	0.097	0.129	0.577	0.614

表2. 因子の抽出

変数名	因子負荷量(バリマックス回転後)			
	因子No. 1 評価性因子	因子No. 2 軽明感因子	因子No. 3 ソフト感因子	因子No. 4 活動性因子
馴染んだ	0.948	0.162	0.216	0.006
似合う	0.939	0.237	0.117	-0.013
洗練された	0.766	0.489	-0.040	0.182
健康的な	0.738	0.470	0.286	0.179
上品な	0.730	0.436	0.146	-0.227
若々しい	0.669	0.628	0.079	0.090
明るい	0.356	0.905	0.054	-0.005
軽やか	0.350	0.873	0.081	-0.176
女性的	0.275	0.752	0.450	-0.027
透明感がある	0.543	0.726	-0.258	0.104
やさしい	0.429	0.563	0.464	-0.402
あたたかい	0.118	-0.135	0.925	0.043
ふっくらした	0.150	0.196	0.873	-0.024
ソフトな	0.050	0.347	0.605	-0.440
活発な	-0.054	-0.293	-0.084	0.907
派手な	0.179	0.279	0.051	0.841
寄与率	29.80%	27.87%	16.61%	12.83%
累積寄与率	29.80%	57.67%	74.28%	87.11%

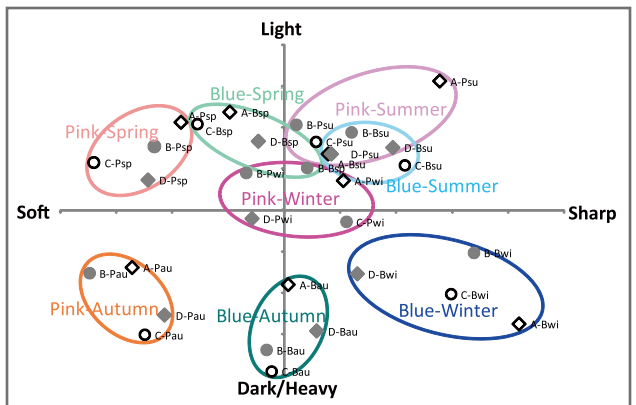


図3. イメージマップ(軽明感×ソフト感)

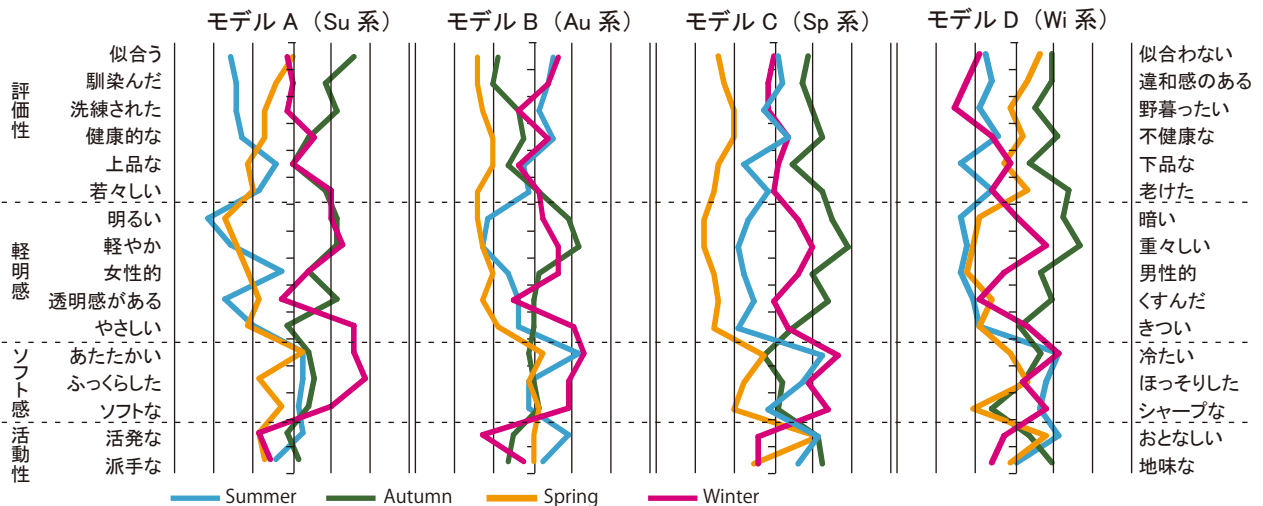


図4. ブルーのドレープをあてた時のイメージプロフィール